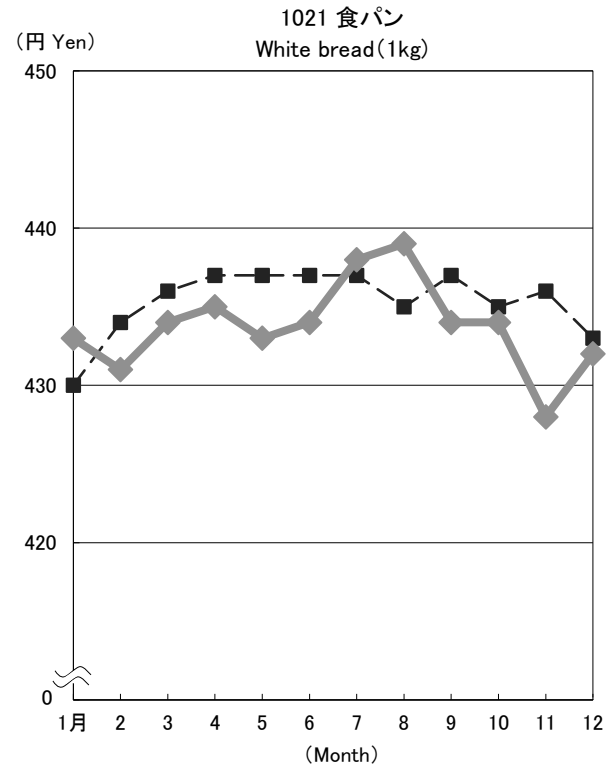
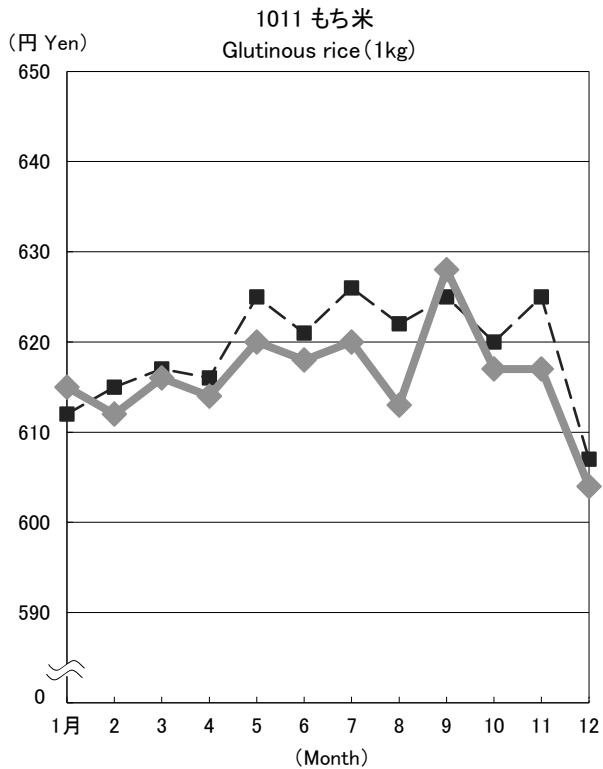
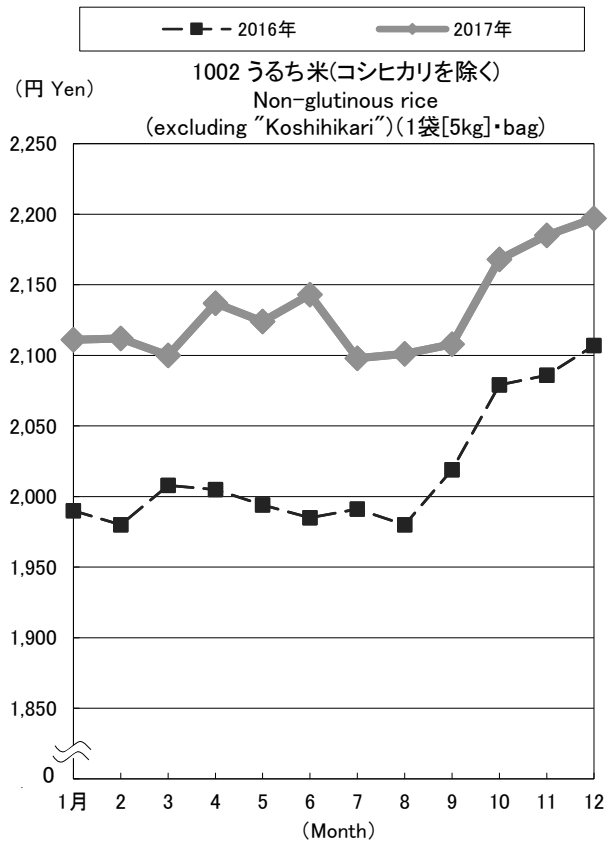
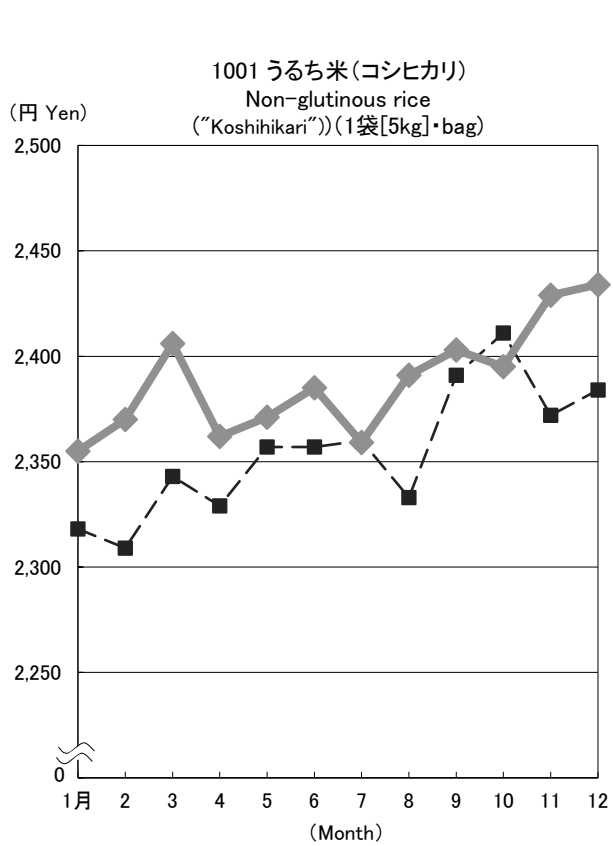
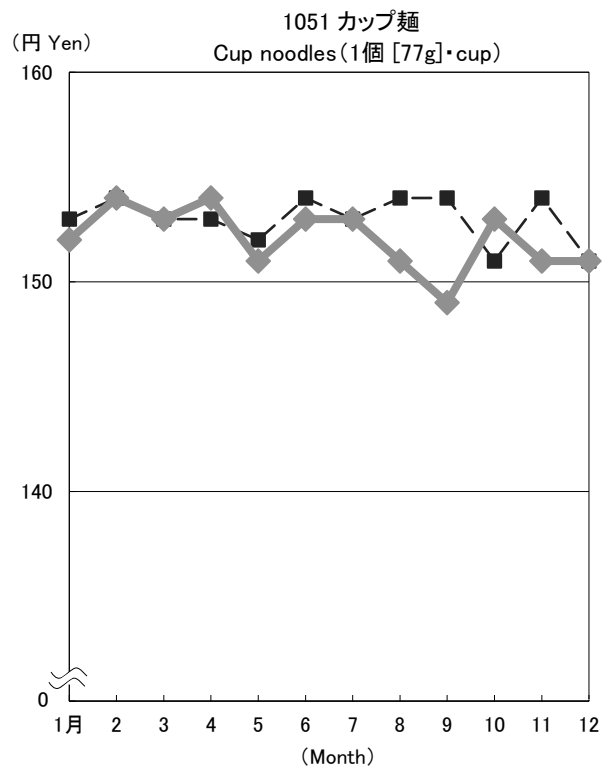
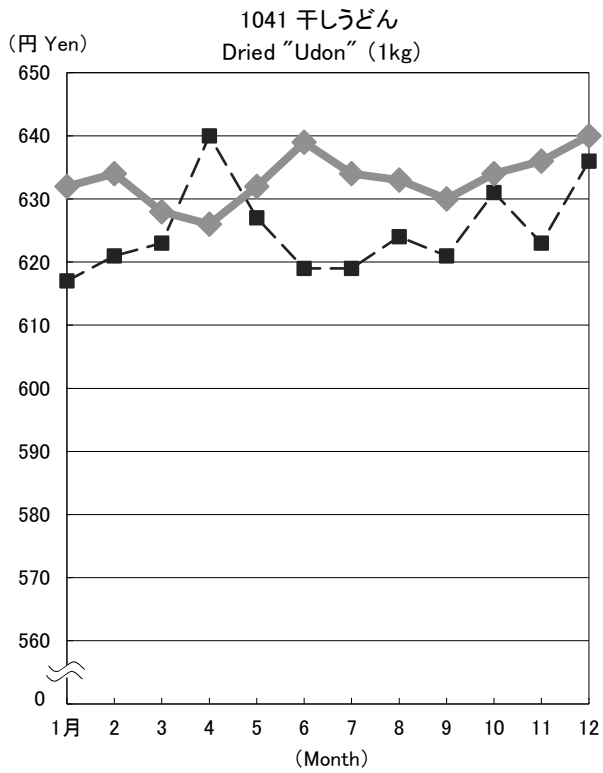
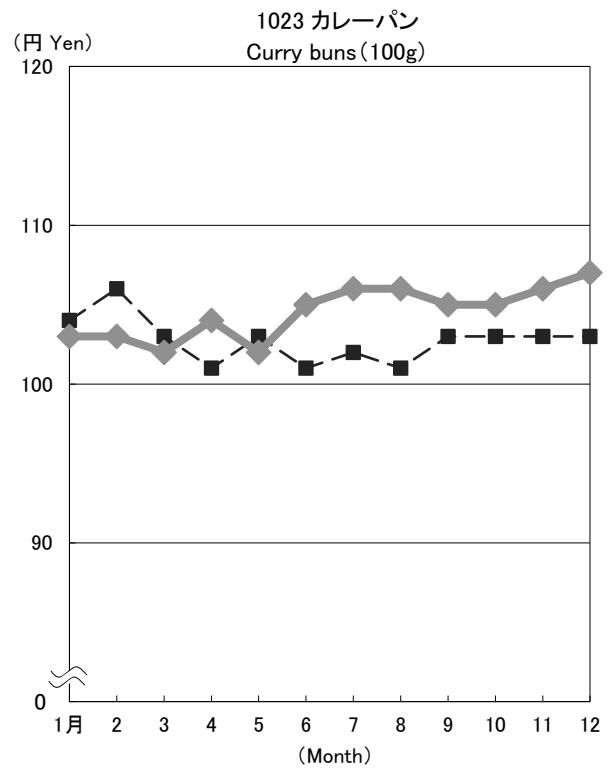
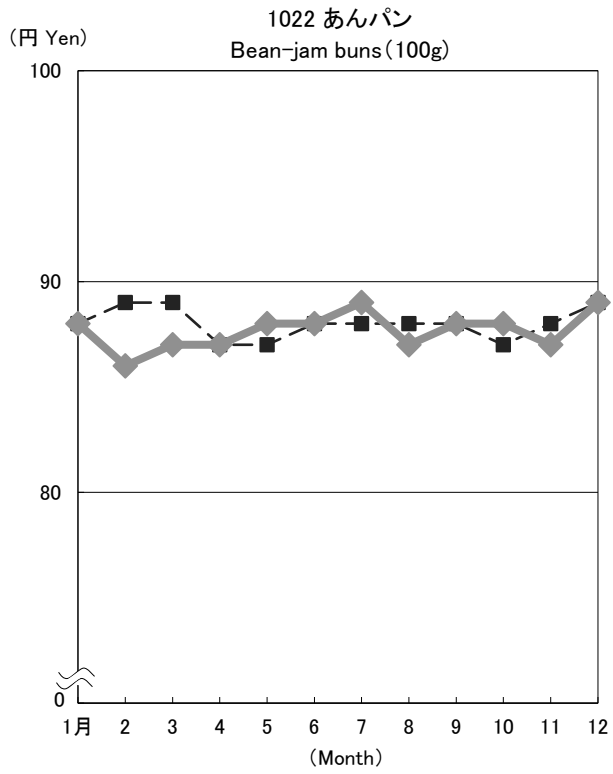


動-I 小売価格の動き-東京都区部-  
T-I Changes in Retail Prices -Ku-area of Tokyo-





## 【動向編コラム1】スーパーの売場面積階級別の価格分布状況

小売物価統計調査は、調査品目ごとに、指定された価格調査地区から、調査員が代表的な店舗を選んで調査を行っています。選ばれた店舗については、従業者数や店舗の形態（スーパー、一般小売店など）、売場面積等の情報を把握するとともに、それらの情報を価格報告者台帳として取りまとめています。

ここでは、同台帳の情報を用いて集計した、スーパーの売場面積階級別の価格分布の状況について紹介します。

### 集計の概要

2017年（平成29年）に調査を行った店舗の売場面積情報を利用して、スーパーの売場面積階級別に価格分布に係る各統計量について集計を行いました。

今回は、店舗形態の違いによる価格への影響を除くため、調査店舗の店舗形態のうち最も割合が大きいスーパーに限定することとしました。また、品質の違いによる価格への影響を除くため、特定の商品に限定して調査している品目の中から、「カップ麺」（日清「カップヌードル」77g入り）を選びました。

### 結果の概要

調査によって得られた価格を、スーパーの売場面積階級別に低い順に並べ、10%点、25%点、50%点、75%点、90%点の価格を比較しました。すると、全ての%点において、売場面積階級が大きくなるほど価格が低くなる、という傾向がみえてきます。

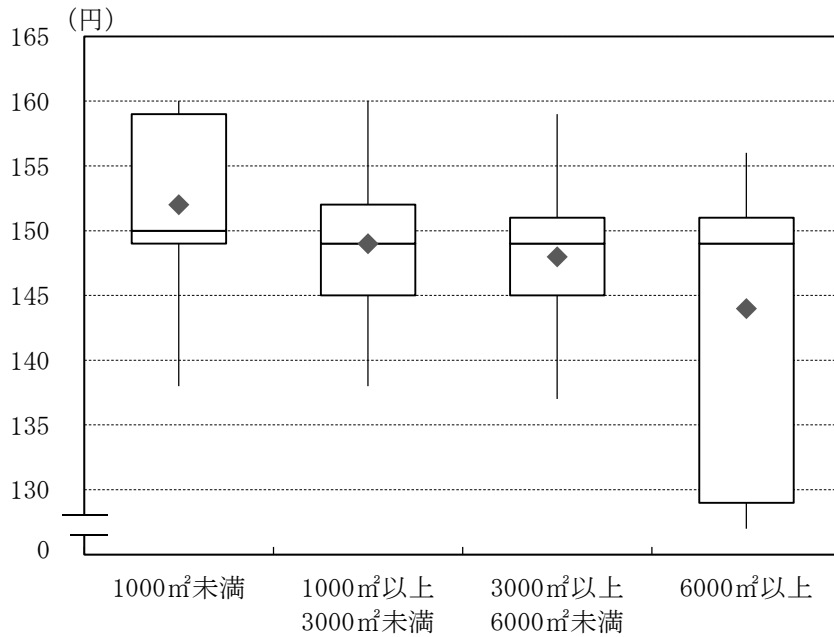
また、四分位範囲によって価格の広がり进行比较すると、売場面積が6,000㎡以上の価格の広がりも大きく、特に50%点と25%点の幅が広いことが分かります。

（表1、図1）

表1 スーパーの売場面積階級別の価格分布に関する統計量

	1,000㎡ 未満	1000～ 3,000㎡	3,000～ 6,000㎡	6,000㎡ 以上
価格数	990	1856	355	1602
平均価格（円）	152	149	148	144
90%点（円）	160	160	159	156
75%点（円）	159	152	151	151
50%点（円）	150	149	149	149
25%点（円）	149	145	145	129
10%点（円）	138	138	137	127
四分位範囲（円）	10	7	6	22

図1 スーパーの売場面積階級別の価格分布図



(参考) 用語の説明

・%点

データを値の低い方から並べ、低い方から数えて25%、50%、75%に当たる点を25%点、50%点、75%点といいます。25%点は第1四分位点、50%点は第2四分位点、75%点は第3四分位点ともいいます。

なお、今回の集計では、分布の全体的な状況を把握するため、10%点、90%点も求めています。

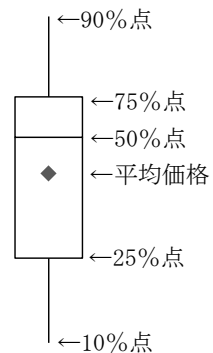
・四分位範囲

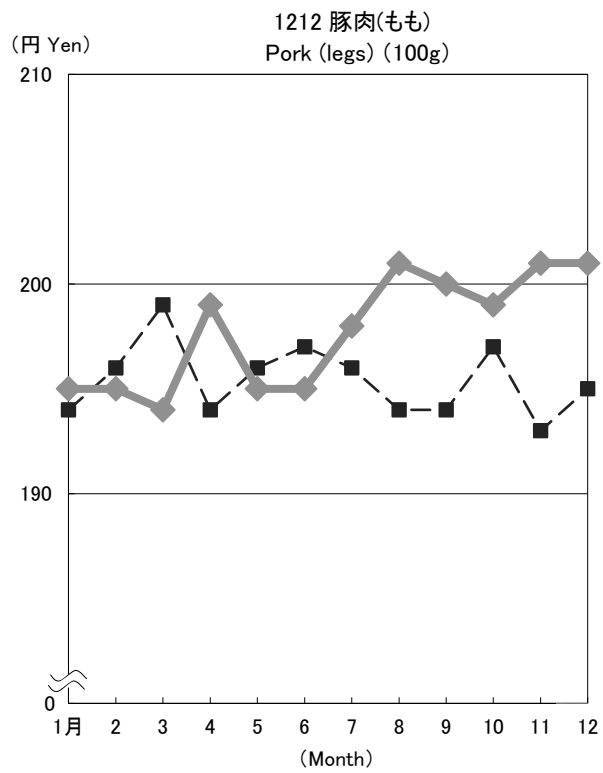
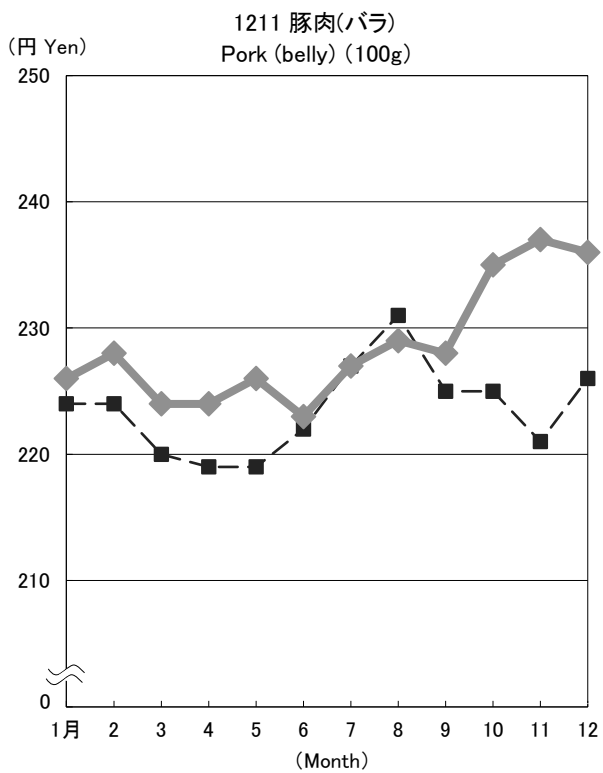
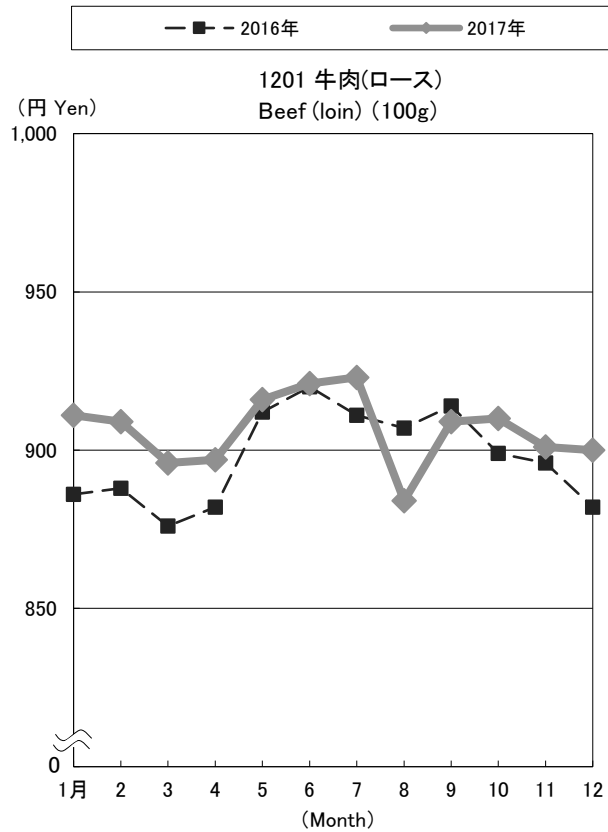
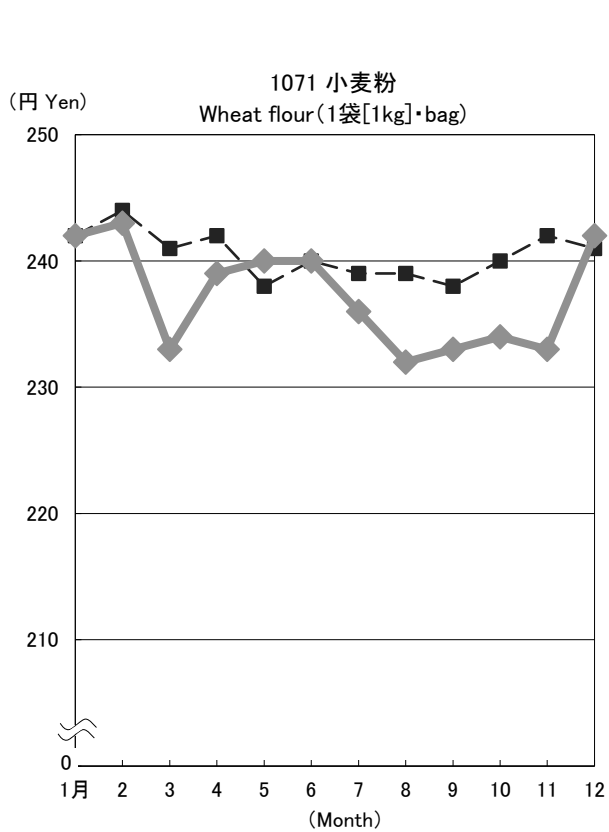
75%点（第3四分位点）と25%点（第1四分位点）との差のことです。

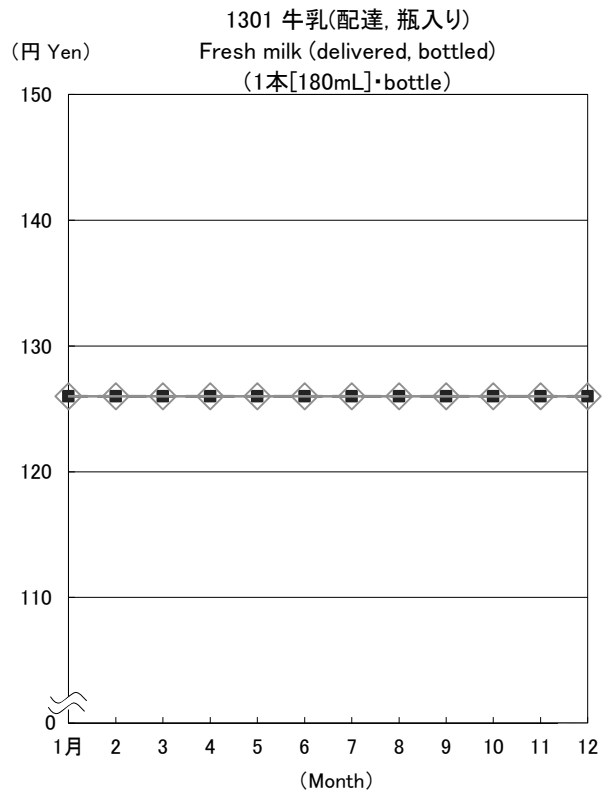
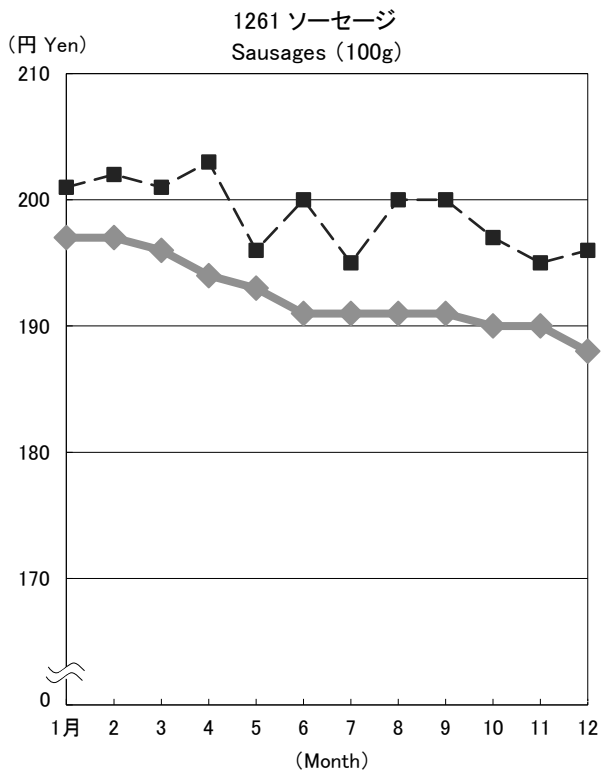
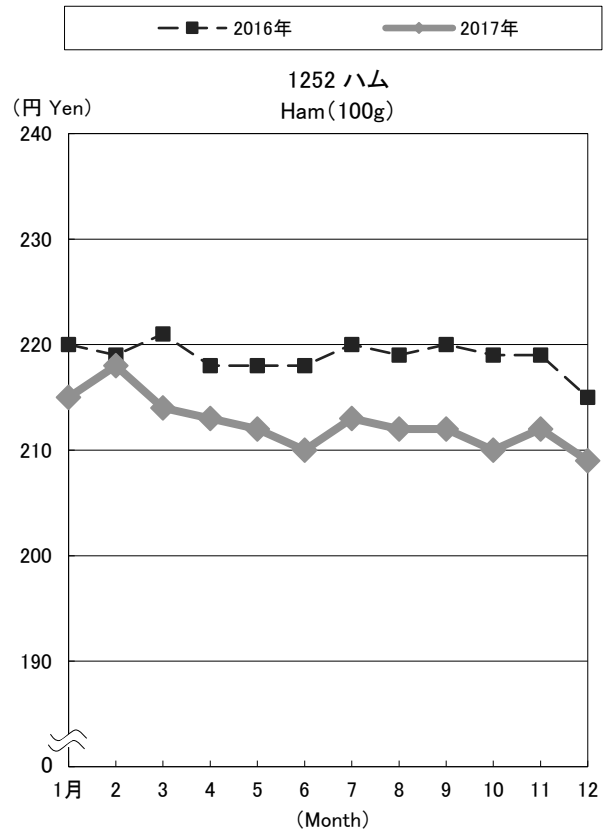
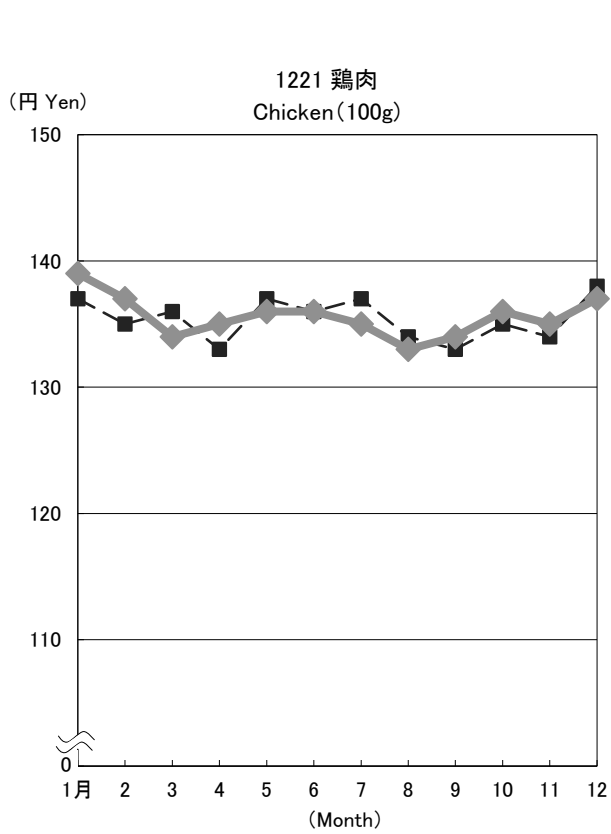
・価格分布図（右図）

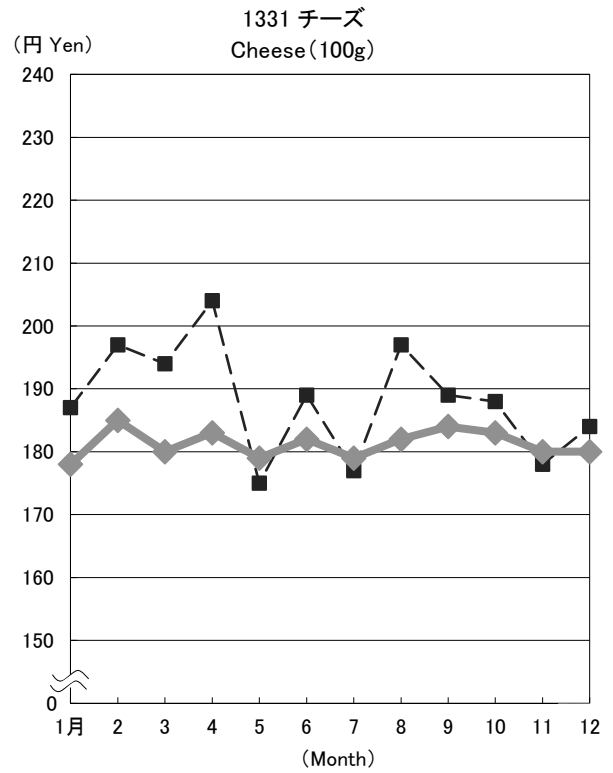
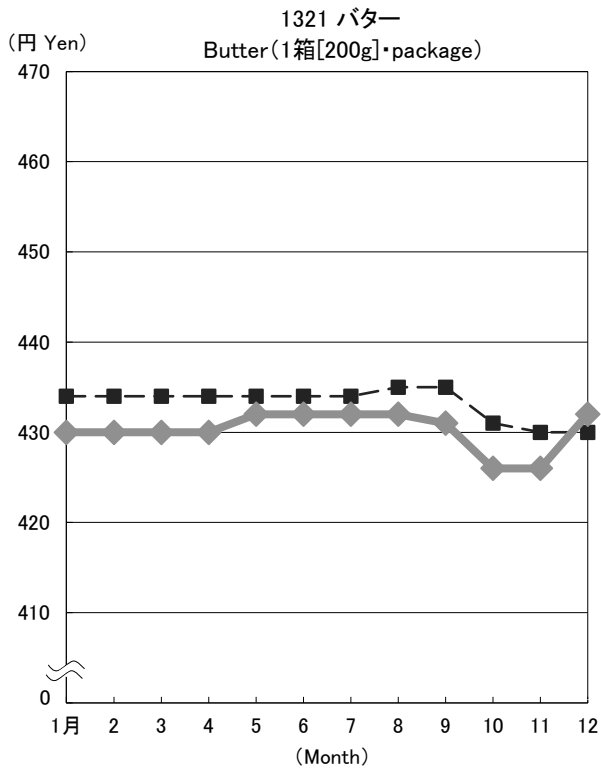
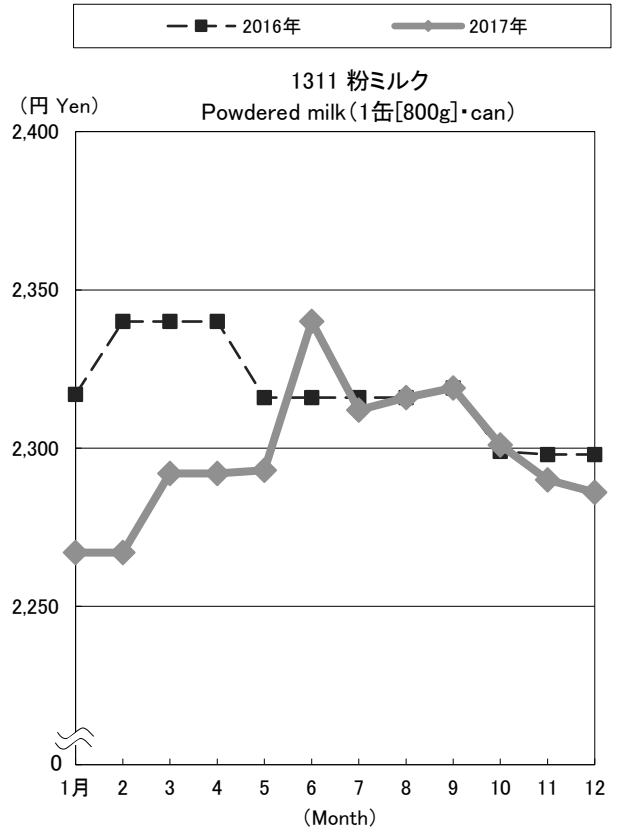
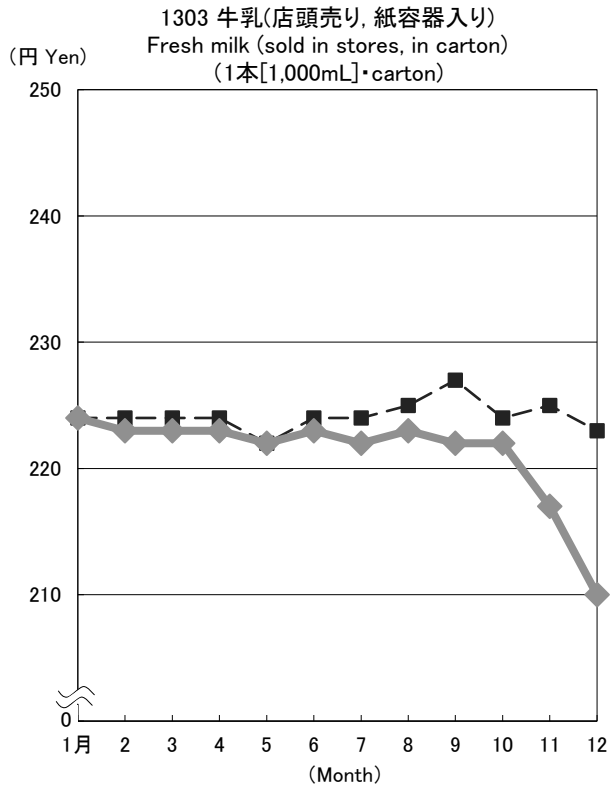
平均価格や各%点の水準を視覚的に表したものです。価格の広がり、四分位範囲をみることで把握することができ、この範囲が小さければ価格の広がりが小さく、大きければ価格の広がりが大きいといえます。

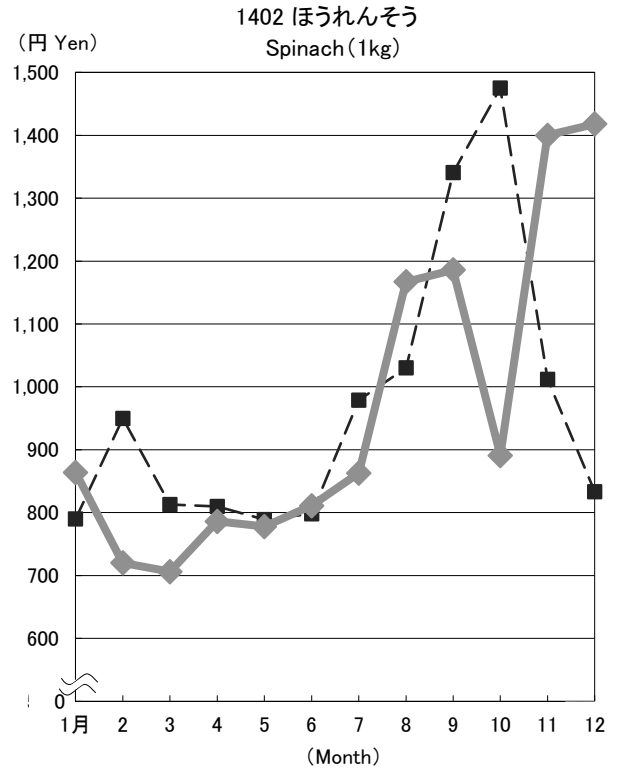
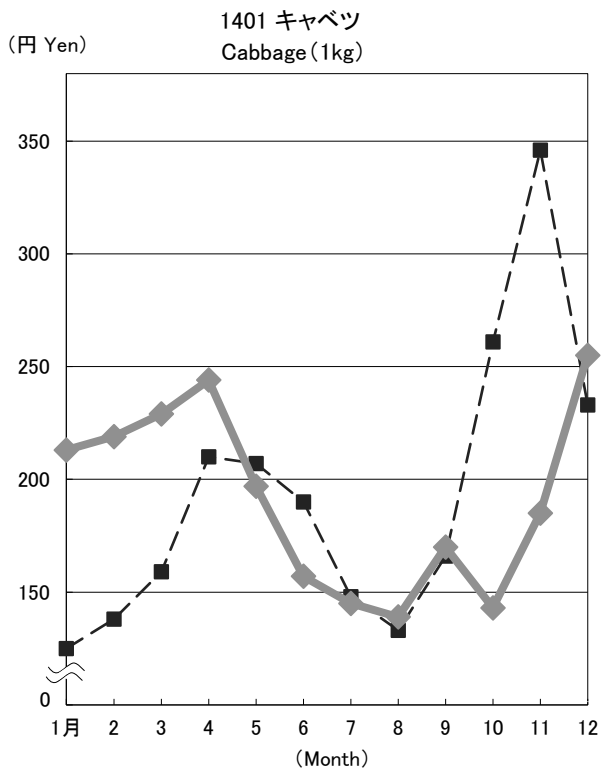
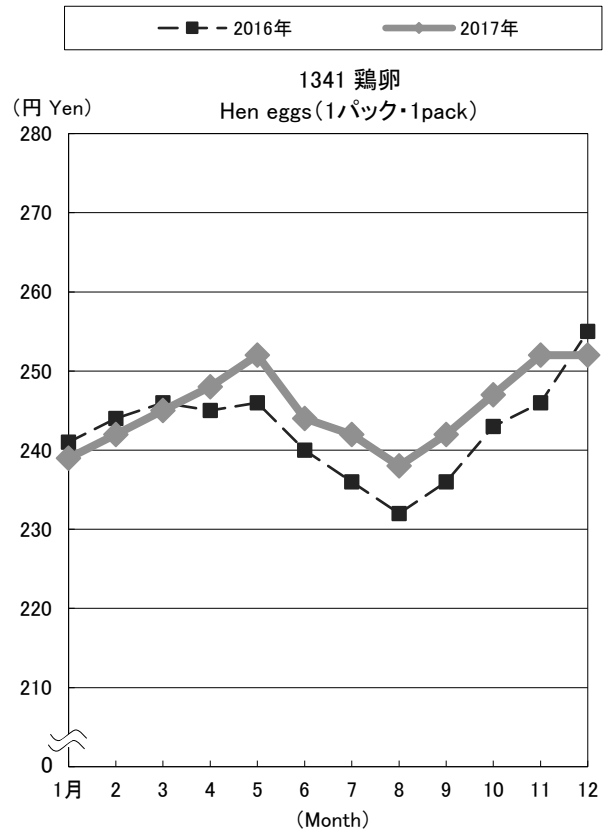
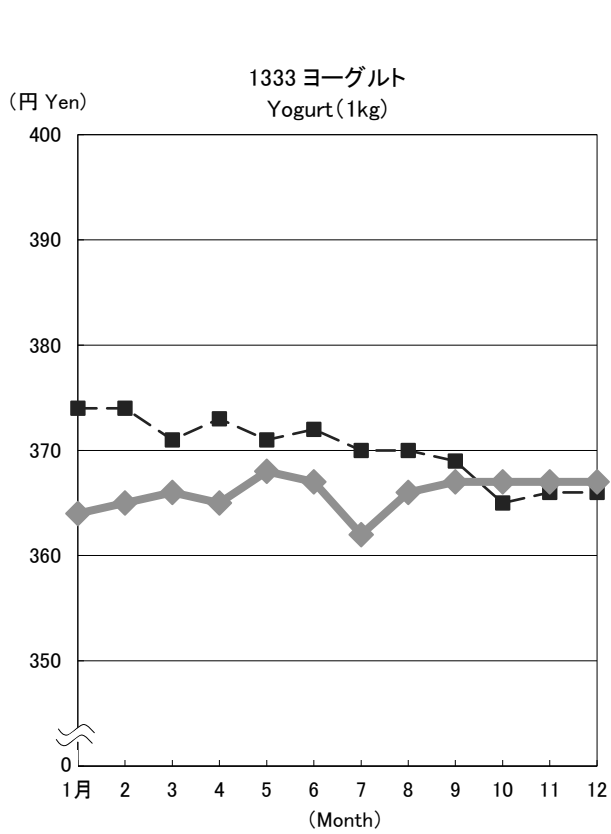
なお、これらの点のうち、二つ又はそれ以上の点が一致することもあり得ます。





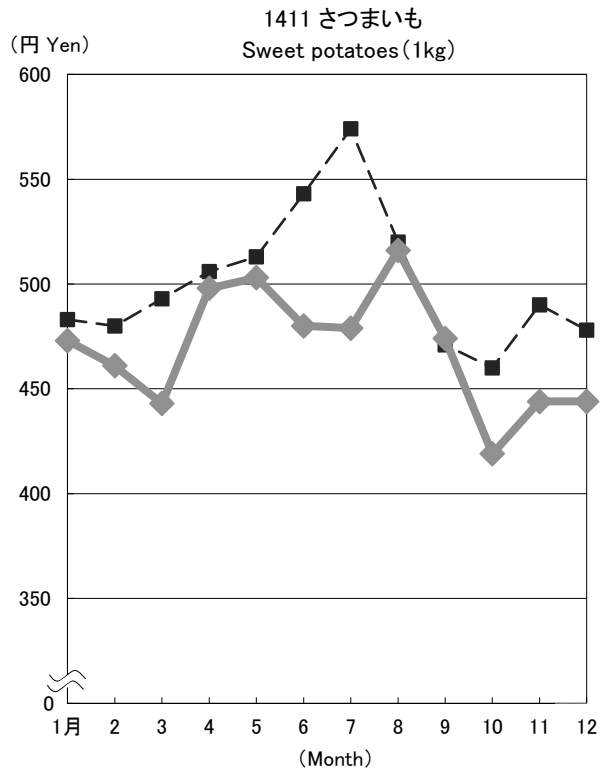
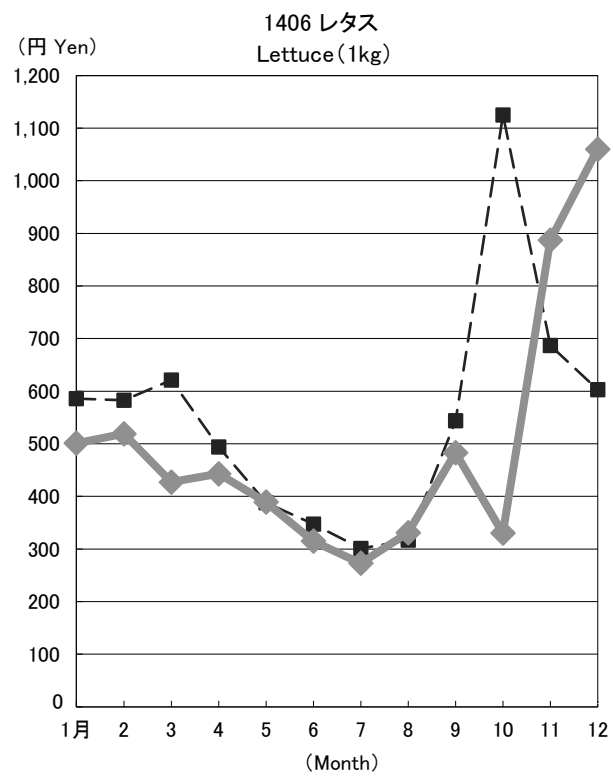
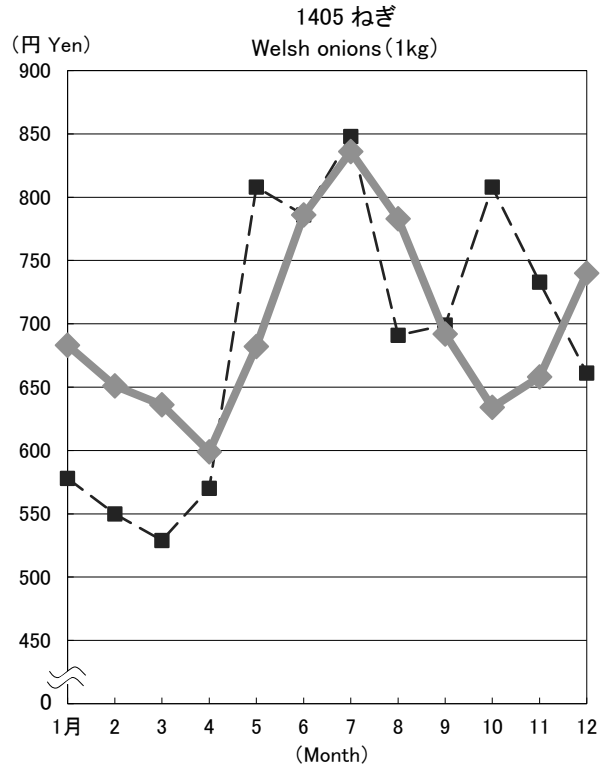
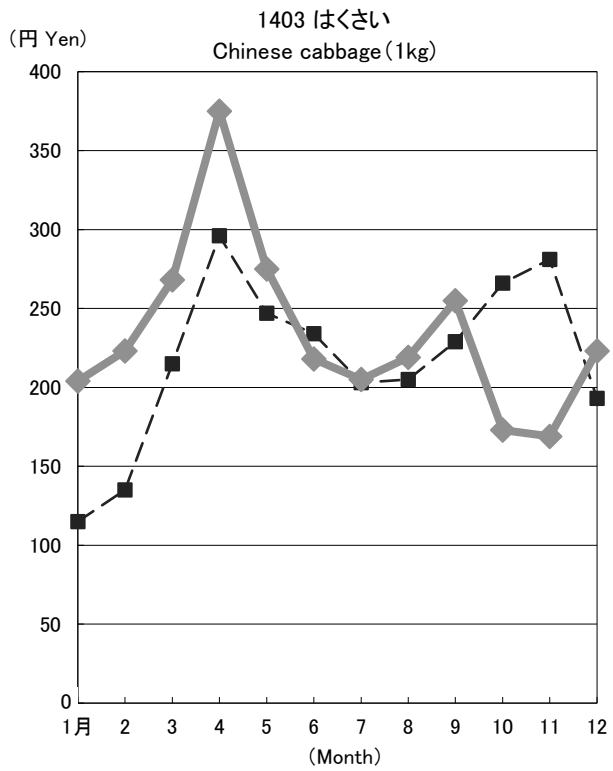


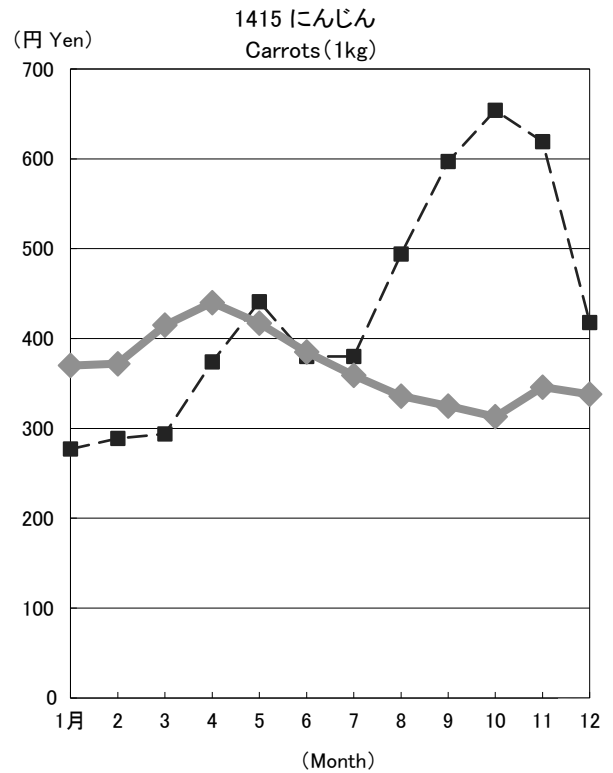
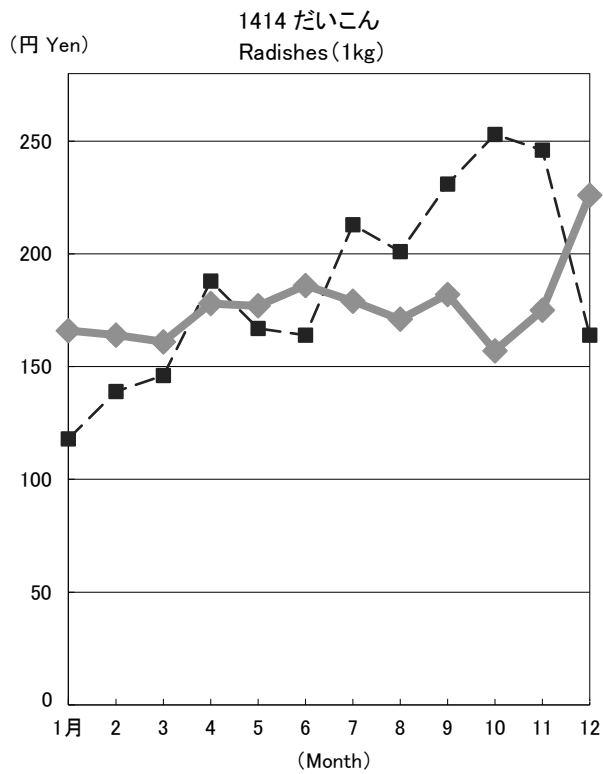
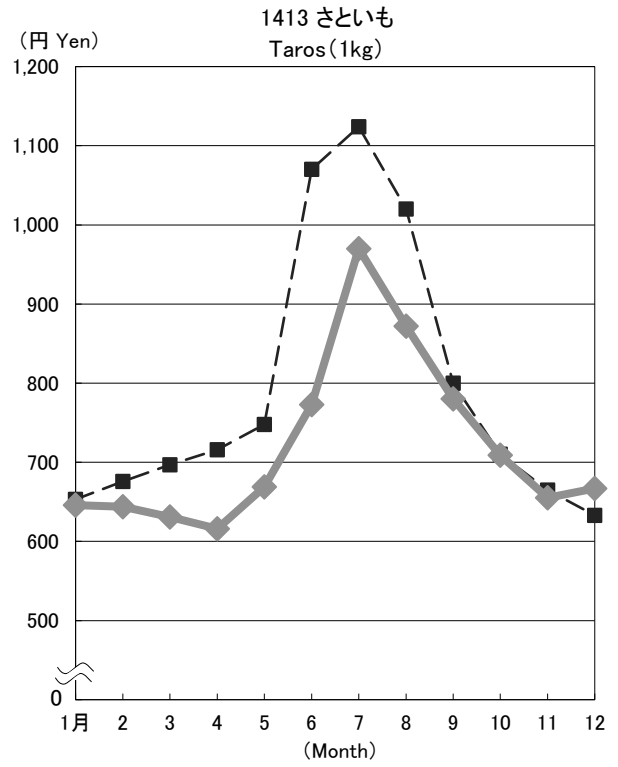
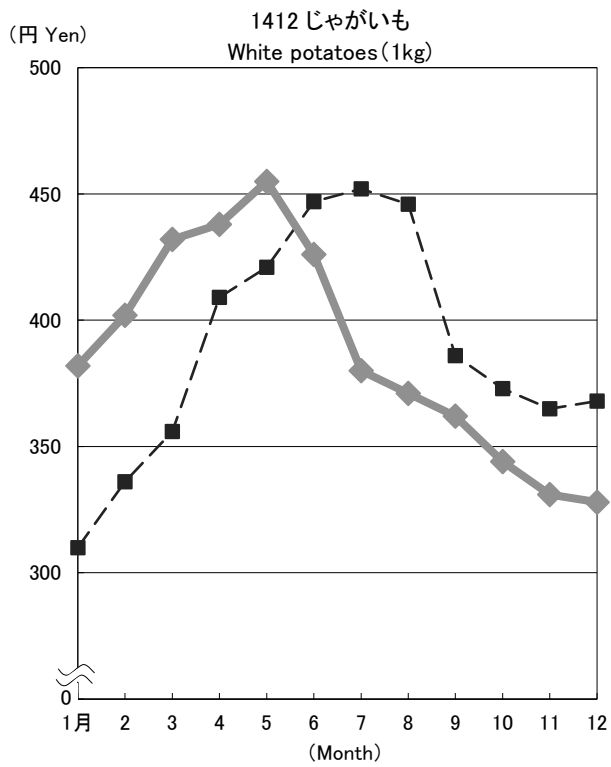




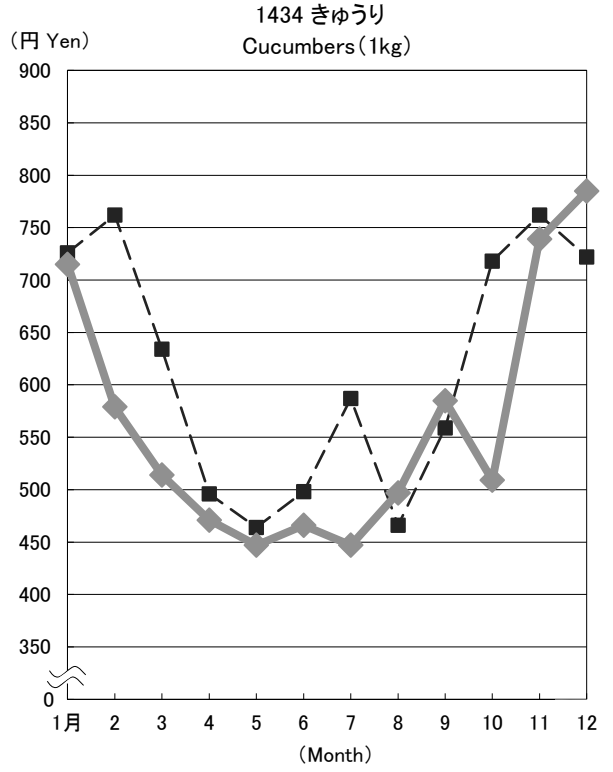
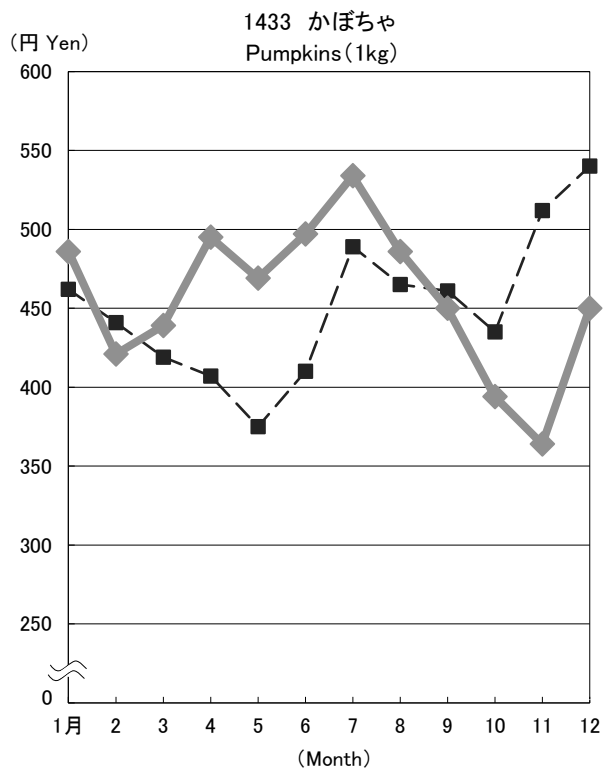
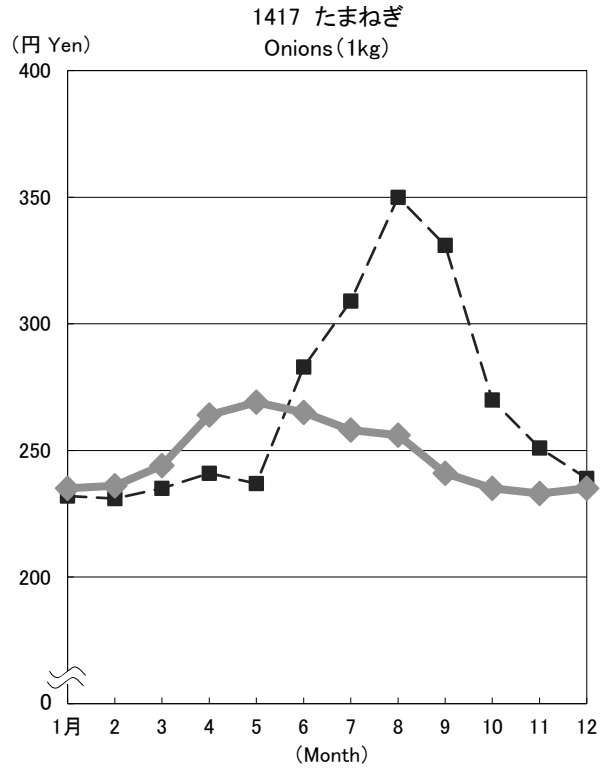
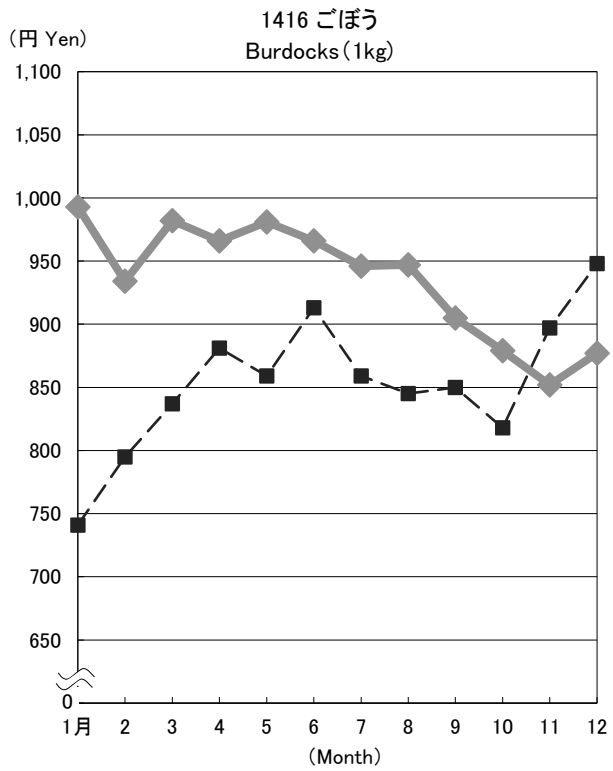


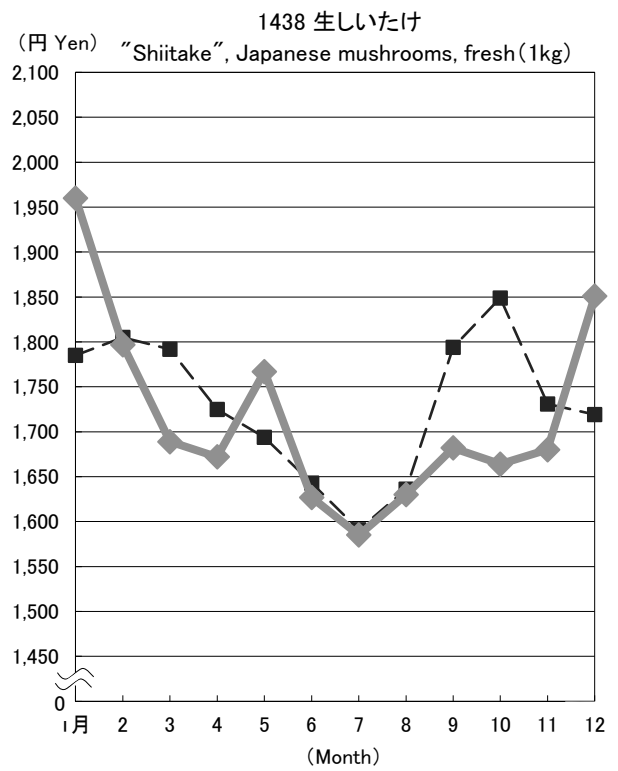
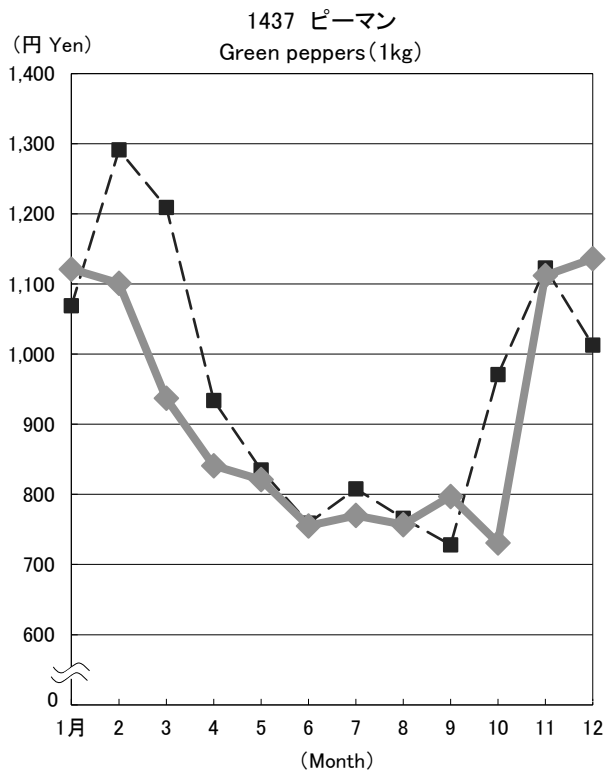
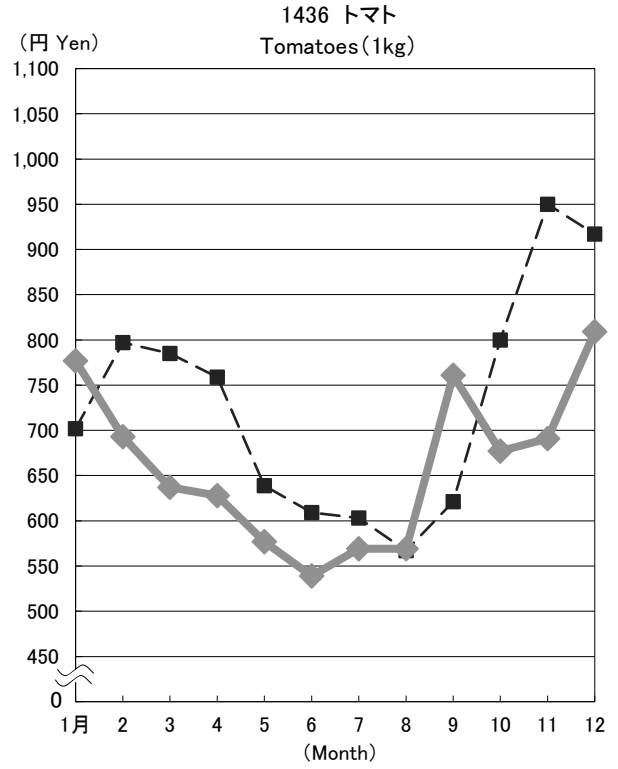
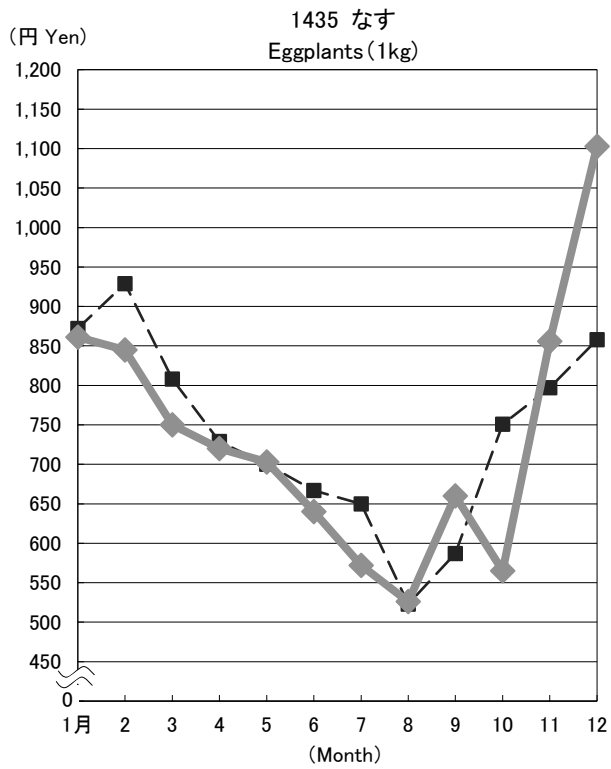
—■— 2016年      —◆— 2017年

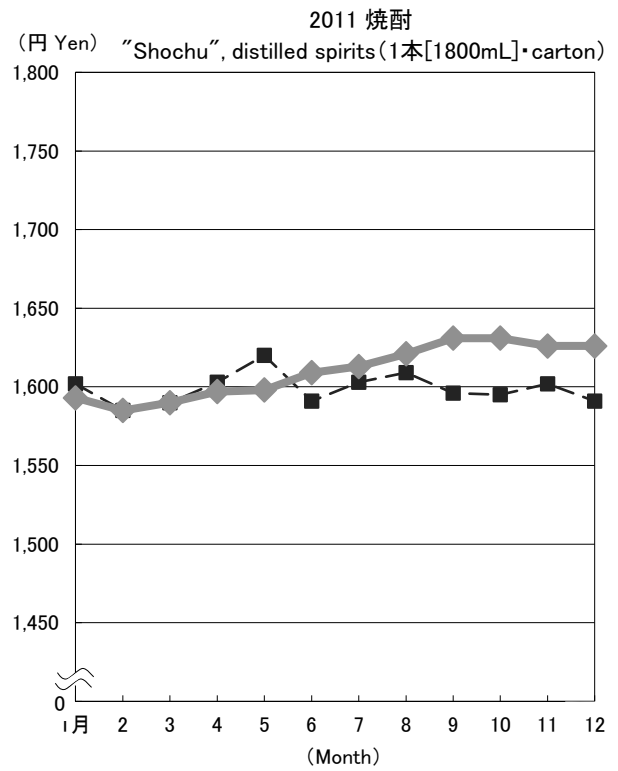
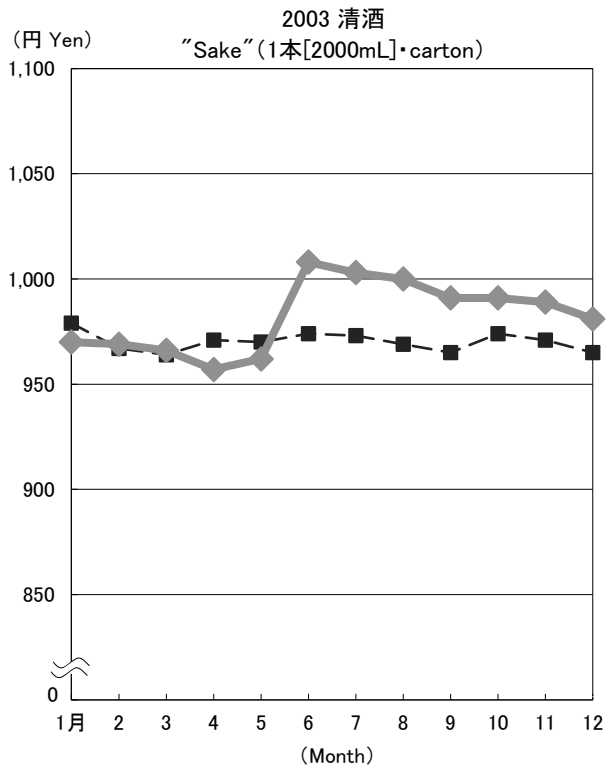
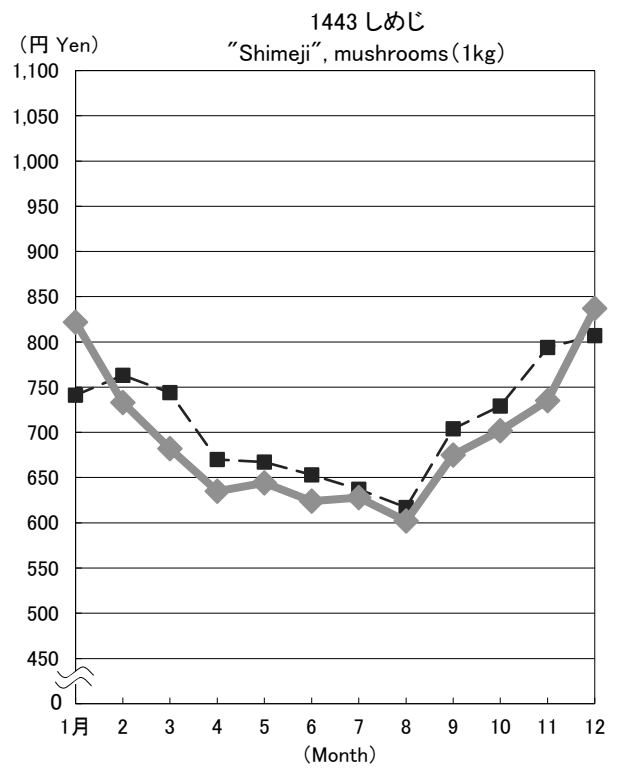
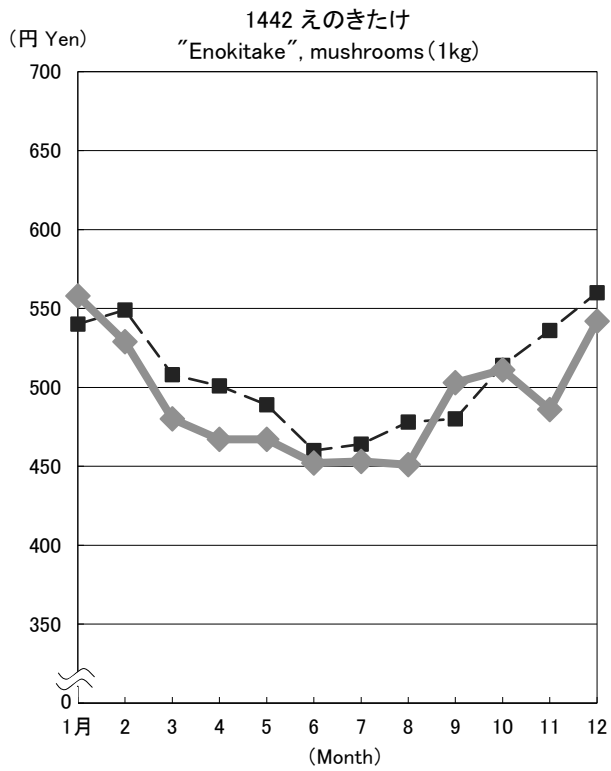


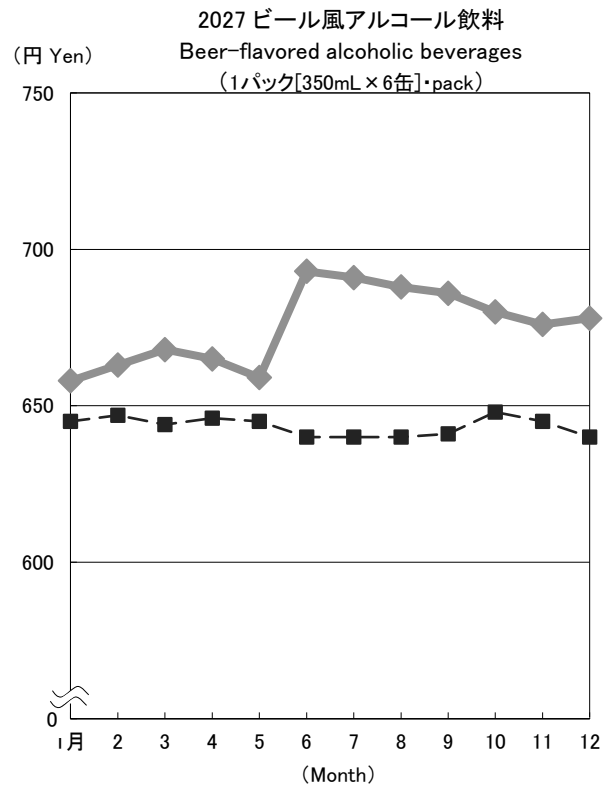
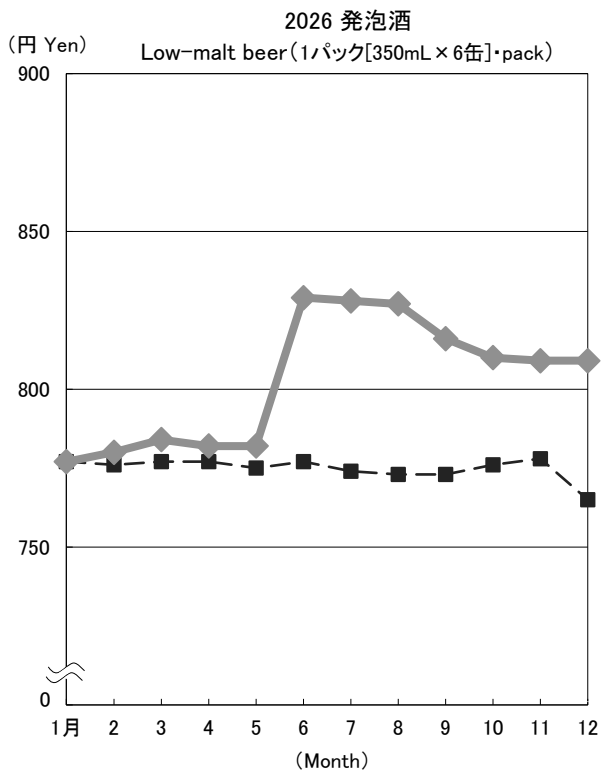
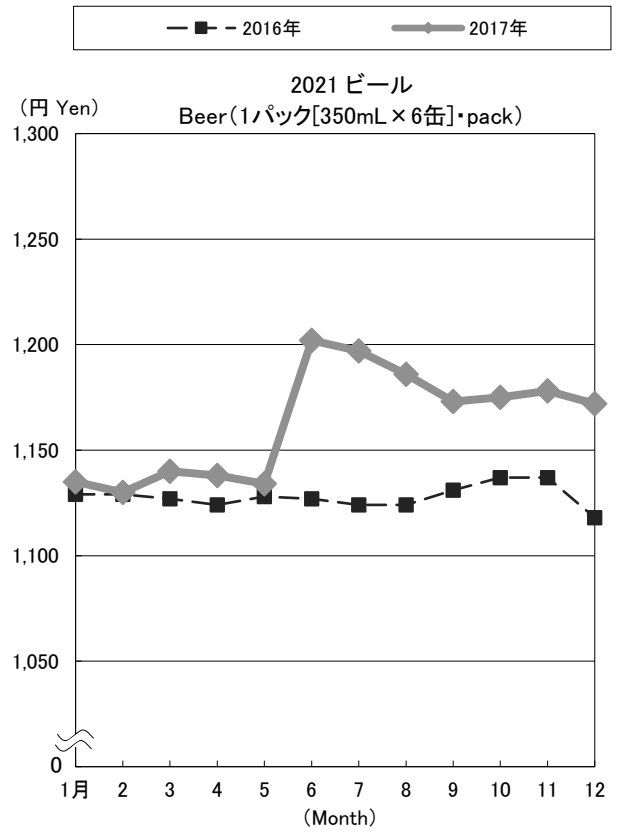
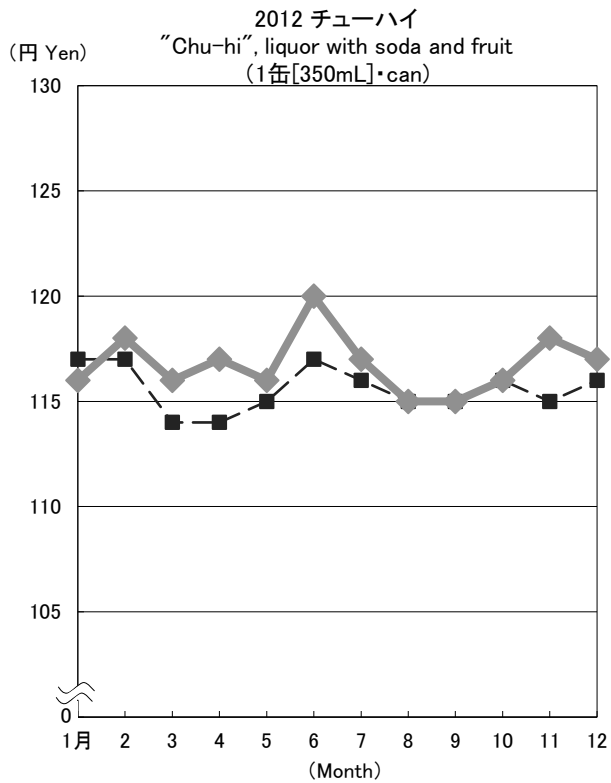


—■— 2016年      —◆— 2017年









## 【動向編コラム2】ビール類の価格の動き 小売物価統計調査の結果から

2017年6月1日に改正酒税法\*が施行されたことにより、小売店がビール等の価格を見直したため、値上がりが見られました。

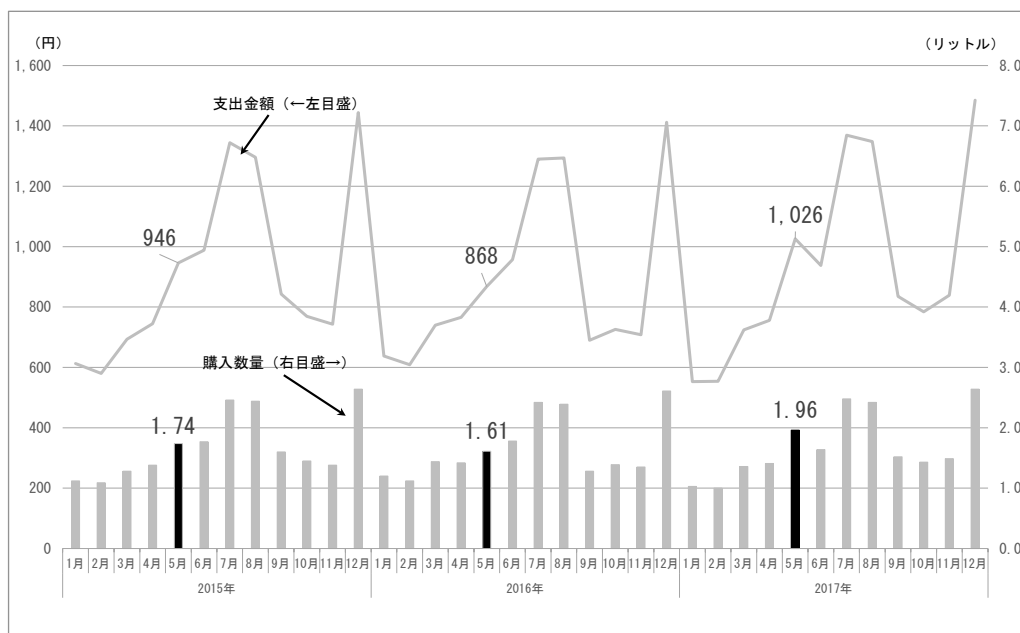
※この改正により、仕入れ値に運送費、人件費などを含めた「総販売原価」を下回る価格で、小売店が酒類の販売をすることが厳しく規制されることになりました。

そこで今回、家計調査の結果からビールの1世帯当たりの支出金額や購入数量の動きと、小売物価統計調査の結果からビール類の価格の動きを見てみます。

### ビールの1世帯当たりの支出金額と購入数量

1世帯当たりの支出金額と購入数量について見ると、例年ビールは、夏場（7月～8月）と年末に多くなっています。駆け込み需要があったと言われる2017年5月の支出金額（1,026円）は、昨年と同じ月に比べ18.2%増加しており、購入数量（1.96リットル）も21.7%伸びています。翌月の6月は購入数量が減少したものの、7月以降は前年と同じ水準で推移しました。

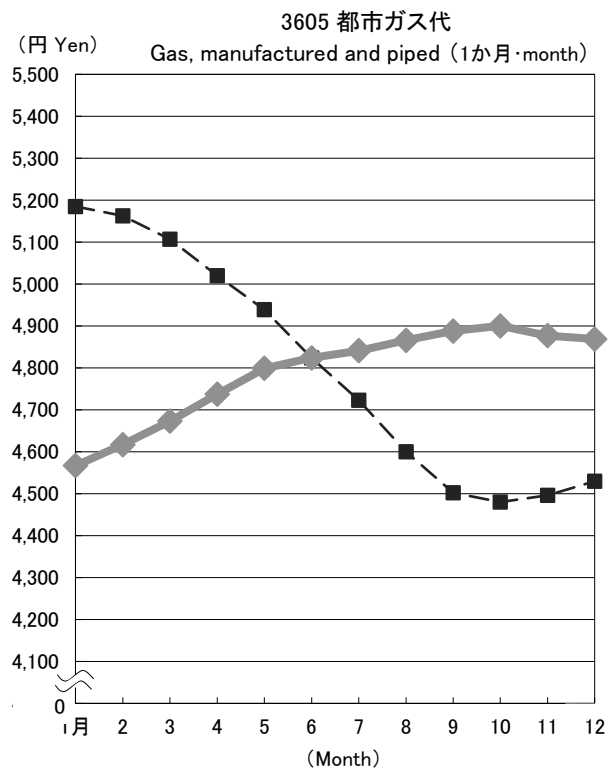
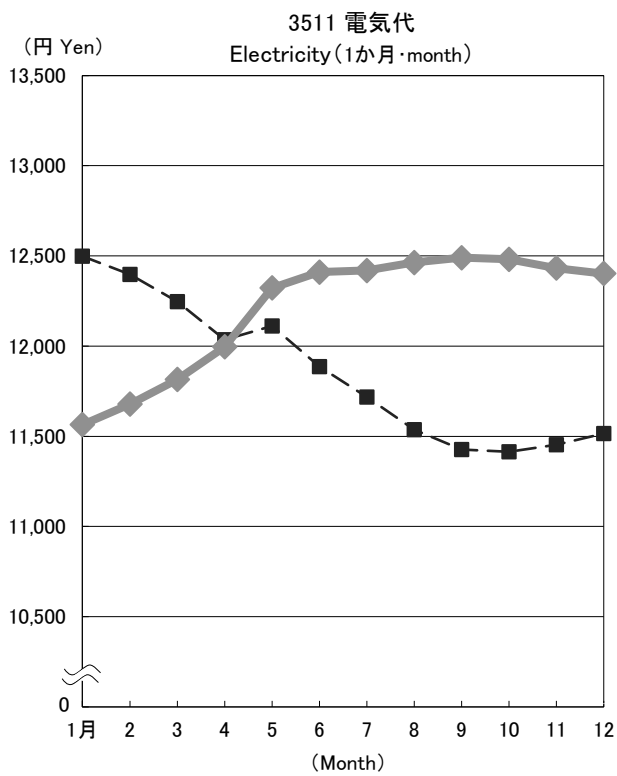
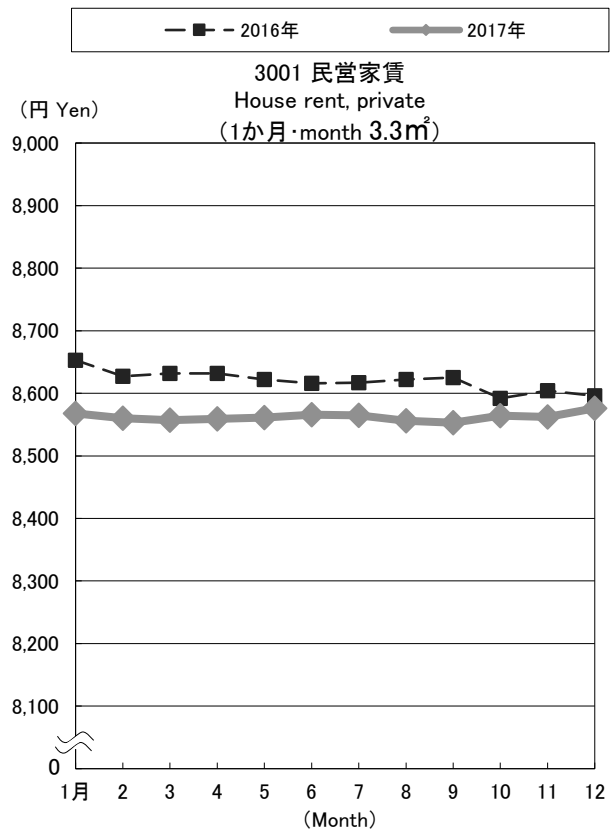
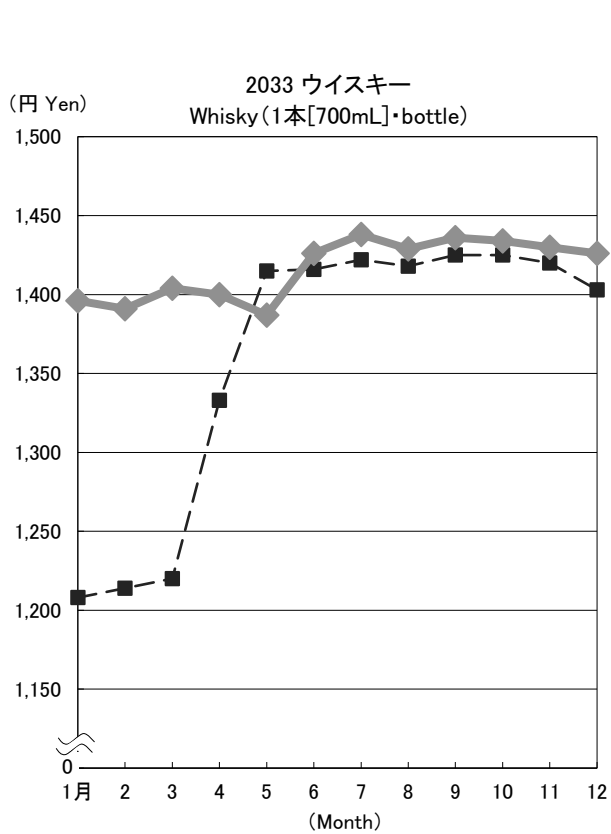
図 ビールの1世帯当たりの支出金額と購入数量



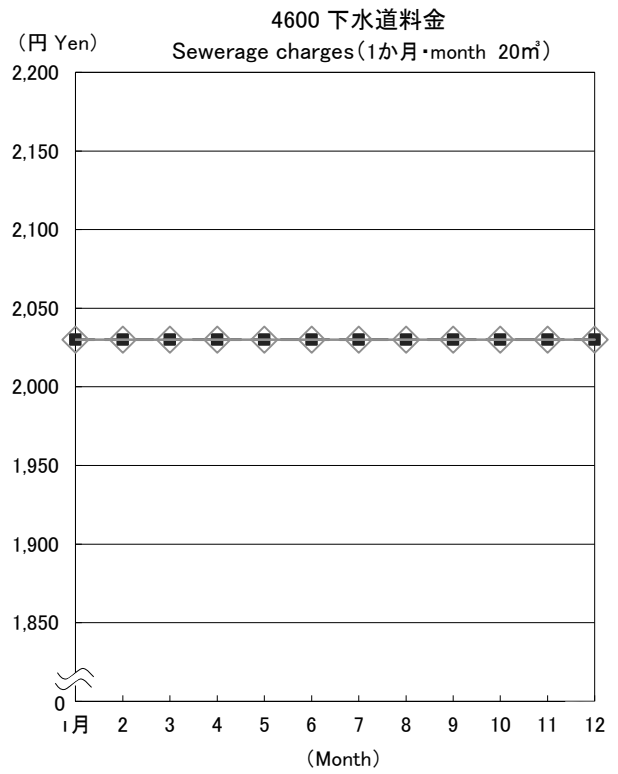
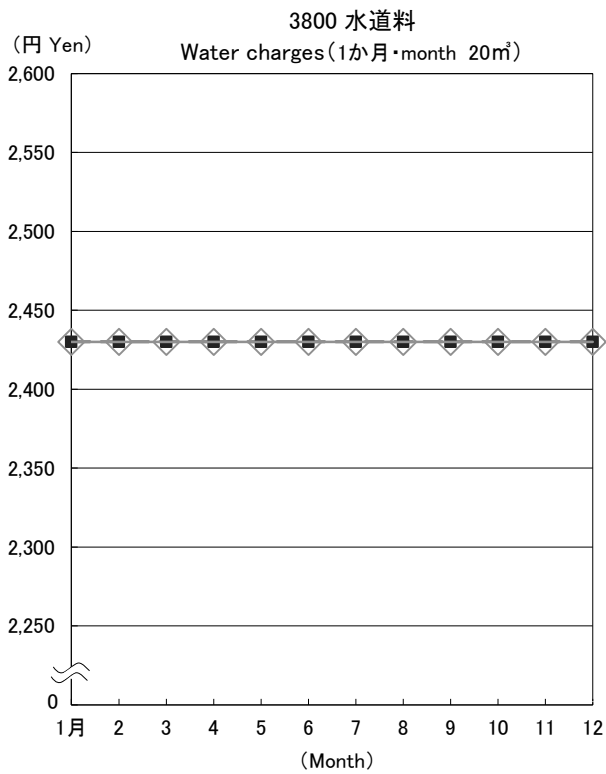
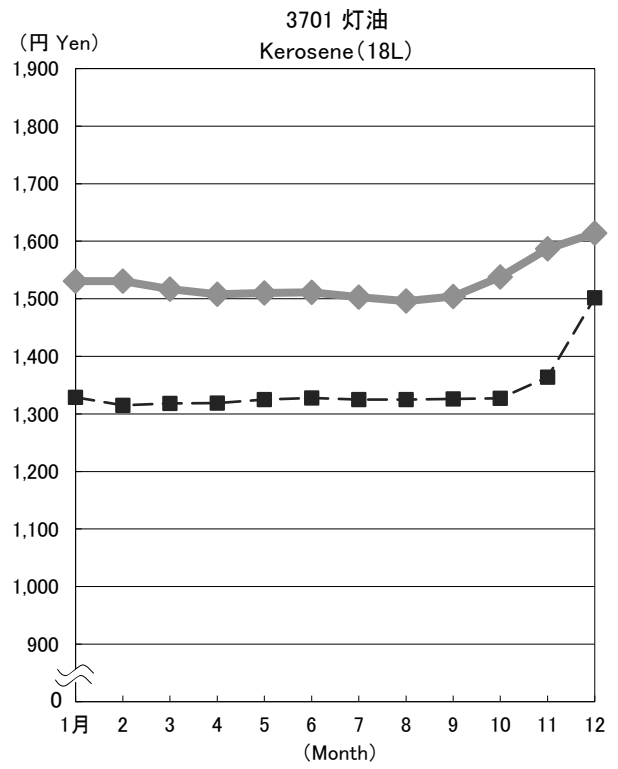
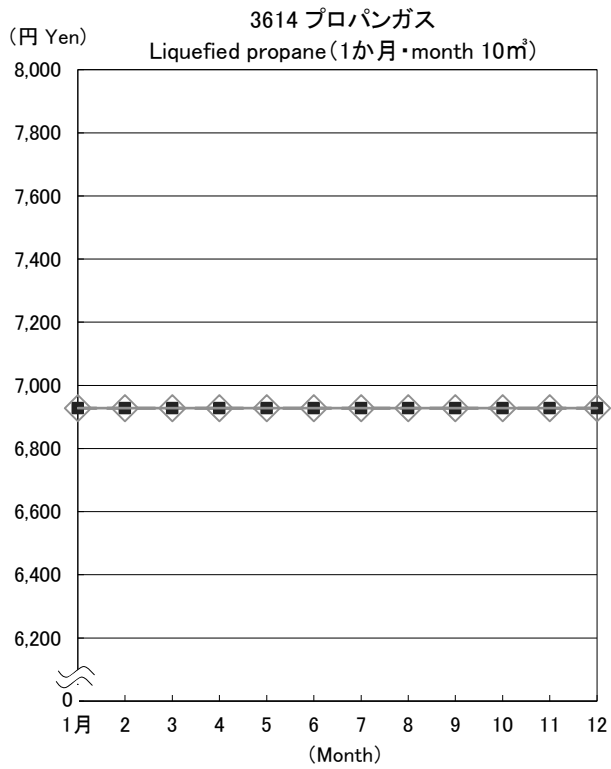
出典：「家計調査（二人以上の世帯）」

### ビール類の価格の動き

小売物価統計調査（東京都区部）の結果からビール類の価格の動きについて見ると、2017年6月の「ビール」、「発泡酒」及び「ビール風アルコール飲料」の平均価格はそれぞれ、1,202円、829円、693円となっており、前月の平均価格に比べそれぞれ、68円、47円、34円値上がりしています。ただし、7月以降の平均価格は徐々に低下しています（P14グラフ参照）。

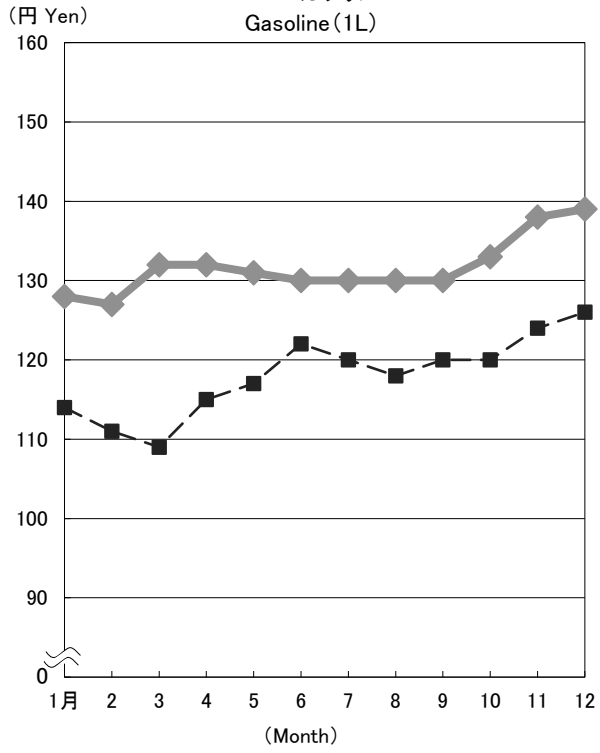








7301 ガソリン  
Gasoline (1L)



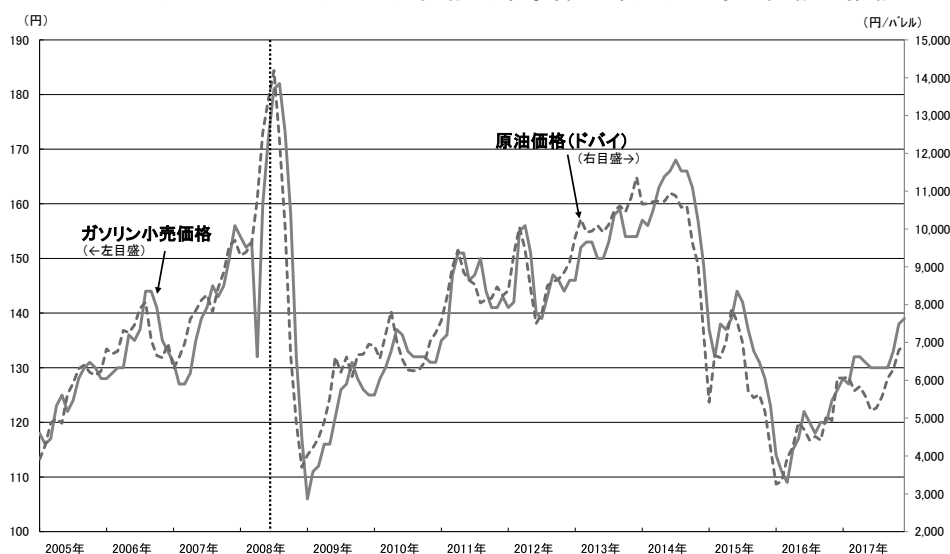
### 【動向編コラム3】原油価格とガソリン価格の関係 小売物価統計調査の結果から

近年、ガソリン価格が上昇傾向にあると新聞などで報道されており、その動向が気になるところです。ガソリン価格の変動には、原油価格の動向等様々な要因が考えられます。

そこで今回、原油価格の動向にスポットを当て、原油価格の動向が、我が国のガソリン価格にどのような影響を与えるか見てみます。

図は、アジア市場の指標となる中東産ドバイ原油価格（※1、2）と、ガソリン1L当たりの小売価格（小売物価統計調査結果（東京都区部））の推移を示したものです。

図 ガソリン1L当たりの小売価格（東京都区部）及び原油価格の推移



出典：総務省統計局「小売物価統計調査（動向編）」  
日本銀行「時系列統計データ検索サイト」  
World Bank Commodity Price Data

#### 原油価格の推移

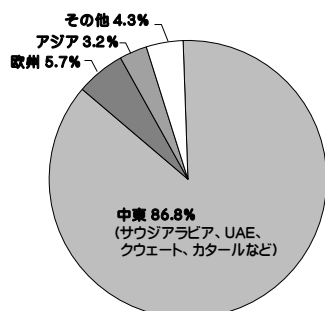
原油価格は、リーマンショックなどの影響により2008年に急落しました。2009年以降は中東における政情不安や、アジア諸国における需要増などにより上昇傾向にありました。その後、2014年には米国のシェールオイル増産などの影響により、原油価格は大幅に値下がりしましたが、2016年以降、石油輸出国機構（OPEC）の原油の生産調整（減産）などの影響もあり、現在まで上昇傾向にあります。

#### 原油価格とガソリン価格の関係

産油国から日本への輸送に時間が掛かることや、原油からガソリンへ精製する工程が必要なため、ガソリン価格が原油価格の変動の影響を受けるのは、1か月程度後になります。図からもわかるように、原油価格が上昇（下落）すると、その後ガソリン価格も上昇（下落）傾向で推移しており、価格が連動していることがわかります。

(参考図)

日本の原油輸入の依存度(2017年)



出典: 資源エネルギー庁「平成29年資源・エネルギー統計年報」より作成

(※1) 我が国の原油の輸入量は中東産が全体の8割以上を占め、原油輸入の多くを中東諸国に依存しているため、ここでは中東産の原油価格を比較対象としている(参考図参照)。

(※2) 為替変動の影響を抑えるため、円建ての価格を採用している。